

*** 美しい心とたくましい実践力のある子ども ***

秋迎十イヌ! 2022

勇気を出して一歩前へ
やさしく美しく
明るく元気いっぱい
前向きに努力

大館市立釈迦内小学校
令和4年9月21日(水) No.19



およそ1万本を収穫! ~ひまわり活動第8弾「収穫DAY」~



8月上旬から続いた大雨の影響で花の生育が思わしくないことから、収穫時期をずらした「ひまわりの収穫DAY」を17日ようやく実施することができました。

当時は、30℃を超える真夏日にもかかわらず、保護者や地域の方、およそ80人が参加して、ひまわりの刈り取り、トラックへの積み込み、中庭への運搬などの作業で、子どもたちと一緒に汗を流してくれました。

サンフラワープロジェクトの伊藤秀夫実行副委員長によると「今年は、実が詰まっており、生育も順調。量もあり、製品加工も期待できそう」とのことでした。

子どもたちも昨年以上に花が大きいことはもちろん、たくさんの方々と協力して作業に取り組むことができたことに喜びを感じていたようです。

30℃を超える真夏日の中、ご協力をいただきました保護者のみなさん、地域の方々に感謝申し上げます。

ひまわり活動は、この後も種取り、搾油、販売活動とまだまだ続きます。

今後ともご協力くださいますよう、よろしくお願いいたします。



参加してくださった保護者のみなさん、地域のみなさん、暑い中、大変お疲れ様でした。ありがとうございました。

ご存じですか？子どもたちに大人気のゲーム 「FORTNITE(フォートナイト)」

- 1 フォートナイトとは
欧米で圧倒的な人気を誇り、世界で1億2,500万人以上のプレイヤーが遊んでいます。
約2km四方の小さな島で100人のプレイヤーが戦い、最後まで勝ち残った1人（または1組）だけが優勝するというバトルロイヤル・ゲームです。



- 2 どんなゲームなの？
ごく簡単に説明すると、次の通りです。
① 最大100人が島にわたる
② 武器などアイテムを集めたり建造物を作る
③ 他の参加者と戦う
④ 最後まで生き残った人が勝利

- 3 フォートナイトの特徴
・ひとりでも、ペアや4人グループでも参加できる
・建造物を作り攻撃や防御に活用できる
・ボイスチャット機能などでオンラインで話しながらゲームができる

本校の多くの子どもたちも「フォートナイト」で遊んでいるようです。また、学校の帰りに「今日は、8時集合ね」と友だち同士で約束し、夜にゲームの中に集合して遊んでいる様子が見えます。

「フォートナイト」は、バトルロイヤルというゲームシステムを採用しています。バトルロイヤルには、1人から4人で遊ぶモードから最大16人までのフレンドと一緒に遊べるモードがあります。フレンドと遊ぶときは、ボイスチャット機能を使い、会話しながら遊ぶことが可能です。つまり、自宅にいながら、仮想空間で友達と遊ぶということができてしまいます。また、「フォートナイト」の対象年齢は、15歳以上となっているため、小学生がプレイする上で危険ではないかと思われる点が3つあります。

【フォートナイトが危険な3つの理由】

①時間を忘れてプレイしてしまいやすい

フォートナイトは、「あまりにも時間を忘れてプレイしやすい」という事で、海外では集団訴訟を起こされそうになっていたりします。

親が対処できる1番簡単な方法は、1日に遊ぶ時間の制限設定をすることです。「みまもりSWITCH」機能を使う事で、簡単にゲーム時間の設定ができます。強制的な仕組みなので、ゲームプレイ中であっても容赦なくオフにできます。

②課金要素がある

フォートナイトには、課金要素があります。直接ゲーム内の強さには関係しませんが、キャラクターの見た目を変えたり、特殊なモーションを使えたりするようになります。課金について予め制限をしないと、後から多大な請求を受ける危険があります。課金については、「ニンテンドーeショップの購入制限」を行うことで防ぐことができます。

③知らない人とつながる可能性がある

フォートナイトには、2人や4人でチームを組んで戦うモードがあります。子どもたちも、友達同士でボイスチャットをつないで遊んでいます。子どもたちはSWITCHのフレンド機能を使って友達とつながっています。しかし、フレンド申請はゲームと一緒にプレイしたことがある人なら誰でも自由に送る事ができるので、知らない人と勝手につながる危険性があります。

こちらは、「みまもりSWITCH」機能でフレンド申請をOFFにすることで、知らない人からフレンド申請を送られることを防げます。ただし、自分からフレンド申請を送ることはできるので注意が必要です。

子どもが成長していくにつれて親が全てを管理することは不可能です。厳しく管理するだけでなく、子どもたちには「なぜダメなのか」「何が危険なのか」を正しく理解してもらいたいと思います。

子どもが取り返しのつかないようなことにならないように、最低限の設定はかけつつ、注意深く見守るというスタンスが大切です。